【事例紹介】

夢の力

The Power of Dream

福助工業インドネシア（株）取締役社長　**シギト　ウィドド**

SIGIT WIDODO

(President Director, PT. Fukusuke Kogyo Indonesia)

キーワード：かけ橋、俺の夢プロジェクト、日イの関係、フォローアップ

私とインドネシア

私はインドネシアで生まれ、１９８９年から１９９６年まで日本に留学しました。７年間のうち、１年間東京で日本語を勉強し、その後６年間、松山にある愛媛大学で機械工学科を学びました。大学卒業後、母国に帰り、日本の企業である福助工業インドネシア（株）に入社しました。私は現在、この会社の取締役社長を務めています。

夢の力

私は１９６９年に、バンジャルヌガラ市という、ボロブドゥール遺跡より西北の方へ約９０ｋｍ離れた小さな町で生まれました。ボロブドゥール遺跡は９世紀に建設された、世界最大級の仏教寺院であり、ユネスコの世界遺産に登録されています。私の生まれたバンジャルヌガラ市の近くにも有名な仏教寺院、ディエン寺院があります。ボロブドゥール遺跡は町の近くですが、ディエン寺院は山地にあります。

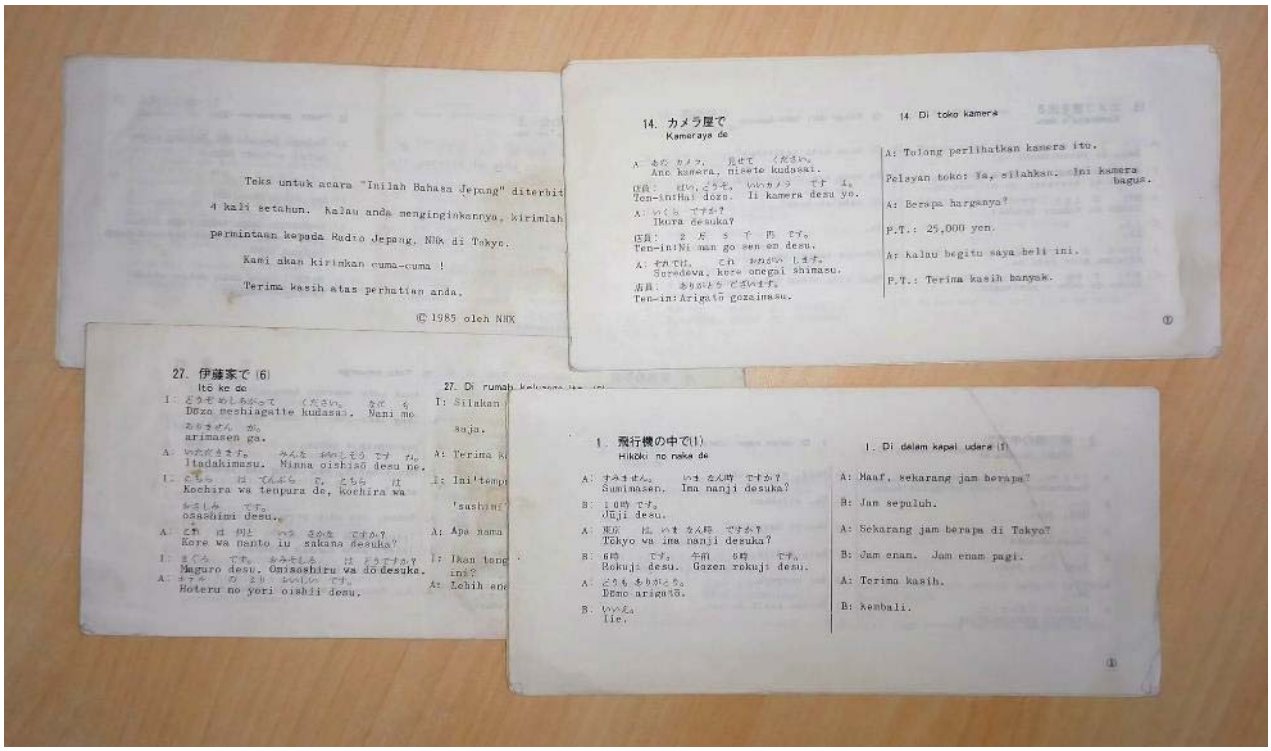
小さな町で生まれ育った私は、あまり世界のことを知りませんでしたが、興味深いものがひとつありました。それは日本製のおもちゃでした。日本のおもちゃは品質が良くて、遊ぶのも面白かったです。そのおもちゃがきっかけで、小学校３年生の時に私は日本で勉強をしたいという夢を持ちました。もちろん、ただの田舎者の私にはあり得ない夢だと思っていました。父の仕事は学校の先生で、決して経済的には余裕がある生活ではありませんでしたが、無事に高校までの教育を終えることができました。

インドネシアの教育制度は日本と同じ、小学校６年間、中学校３年間、高等学校３年間です。中学

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

校の時に、自分で日本語を学びたいと思いました。しかし、私の近所には、日本と関わっていた人はひとりもいませんでした。このため、私はジャカルタにある日本の大使館にはがきを送りました。「皆さんの国についてもっと知りたいです。是非パンフレットなどのようなものがあれば送って頂けないでしょうか」と書きました。

大使館からの返事が来て、沢山の情報が送られてきました。その中の一つは日本語を勉強するための教科書でした。その教科書を使って、ＮＨＫのラジオ番組を聞いて日本語を勉強しました。こうやって、中学生の時に「おはようございます、こんにちは、わたしはしぎとです」のような簡単な会話はできるようになりました。



中学生時代に使用した日本語の教科書

高校までの私は、特に優秀ではありませんでした。成績は普通で、どの分野でどのレベルでも、人から注目されるような優秀な成果をだしたことはありません。ただ私は、父と母から、決して諦めないように教育されていました。最後まで頑張って努力しなければいけません。そして他人に頼らないことです。どちらかというと私は内向きタイプで、賑やかなところや人が多いところはあまり好きではありません。自分でコツコツとやるのが好きです。その他の弱点としては、ものごとをなかなか覚えることができません。それが理由で、学生時代の成績は、優秀というわけには行きませんでした。

高校卒業後、外国へ留学するための政府奨学金の知らせを新聞で見つけました。この奨学金は当時ハビビ技術評価応用庁長官のプログラムでした。当時、私の成績は奨学金を得られるための条件を満

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

たしていませんでした。無理難題なことを承知の上、申告するための必要書類を準備し提出してみました。

第一回目の受験者は全国から約５，０００人の学生たちが参加し、合格まで６回のテストを受験し、最終的に合格した学生は約１５０人でした。最終テストの内容の中には、「あなたが合格したら、どの国で勉強をしたいのですか？」という質問がありました。選択肢の中には九つの国の名前が書かれており、私は無意識に日本を選んだのです！

ハビビ元大統領と、ハビビ奨学金プログラム同窓会の設立時に

大学時代

１９８９年、私はインドネシア政府の奨学金を獲得し、日本に留学することになりました。初めて日本について飛行機から降りた時に「デジャヴュ！これは私の小学校３年生の時の夢だ！日本で勉強をしたい！」と思ったことがよみがえりました。東京で１年間日本語を勉強した後、国立愛媛大学の機械工学に入学しました。

４年生から研究室に入り、炭素繊維強化プラスチック（ＣＦＲＰ）について研究をしました。研究内容は、ＣＦＲＰが衝撃を与えられた時にどんな破壊の仕方をするかをシミュレーションするというものでした。この研究は修士課程卒業まで続きました。

松山は、勉強のためにとても快適な街です。町はそれほど大きくはありませんが、日常生活に必要なものはほとんど揃っており、問題なく生活できます。また、道後温泉や松山城など、全国的に有名な観光地もあります。私は松山に着いた時に、移動手段のためにマウンテンバイクを買いました。当時マウンテンバイクに乗っていたのは、私とアメリカ人の二人だけでした。このため私はどこに行っても、すぐ大学の友人たちに見つかってしまいました。「シギト、昨日、あそこのレストランで食事をしたでしょう？あなたの自転車をあそこの店の前で見かけました！」

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

他の留学生たちの多くは、真面目に図書館に行って勉強していましたが、私は日本の友達と様々な活動をしていました。当時の愛媛大学の留学生の中で、私はもっとも勉強していない留学生に見えたかもしれません。冗談だと思いますが、日本人の友人や留学生から「不良留学生」というニックネームを付けられていました。しかし、アパートに戻ったら、授業の内容を理解できるまで、必死で勉強していました。

大学時代にいろいろな方と交流ができたことによって、たくさんの友人・仲間ができました。そのことに今も感謝しています。私が松山で最初に行った社会活動は、インドネシア語のクラスを作ることでした。当時インドネシアについて知っている人が少なく、このクラスを通じてインドネシアのことを地域の方々に紹介しようと思いました。このクラスは週１回、インドネシア語に興味を持った方々が参加しました。

日本人学生のように、私もアルバイトをしました。特に修士課程進学後は、インドネシア政府の奨学金を受給できなくなったので、アルバイトをせざるを得ませんでした。チラシ配り、スーパーの店員、レストランのウェーターや翻訳通訳など、様々なアルバイトをしました。その中で最も長く続いたのはインド料理のレストランでのウェーターです。殆ど毎晩カレーを食べて、食費を節約することができました。

その次に長く続いたのは、翻訳と通訳のアルバイトでした。当時、愛媛県からインドネシアに進出する企業が多数ありました。文書翻訳、インドネシア人研修生のための通訳、インドネシア語をインドネシアに滞在する日本人スタッフに教えることなど、いくつかのニーズがありました。その一つが、愛媛県四国中央市にある福助工業株式会社です。ここから福助工業株式会社との接点ができました。

愛媛大学とは、いまでもコミュニケーションを取っています。毎年、日本へ出張する時には、大学を訪問しています。２０１３年１２月に愛媛大学校友会のインドネシア支部が開設され、ＯＢたちと大学との関係は更に良くなっています。私たちは、愛媛大学の同窓会メンバーとしてお互いに連絡を取り合っています。

２０１５年に、マレーシア支部の同窓会メンバーがインドネシアに来て、大学時代に一緒にしていた食事やカラオケ、運動会などの様々な楽しい活動を一緒に開催しました。その翌年にお返しとして、インドネシア支部のメンバーがマレーシアに行き、愛媛大学からの代表も出席しました。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

大学卒業式後の胴上げ（マレーシアの友人たちと）

インドネシアとマレーシアの元愛媛大学留学生の交流会

元留学生と大学との関係を構築することは、戦略的な動きだと思います。卒業生は大学（そしてその町）のことを良く知っています。大学側も卒業生のことを把握しています。大学とＯＢとしての関係だけでなく、社会活動、教育活動、ビジネス活動などの様々な活動に展開できます。これをすることによって、グローバルな活動がさらに拡大できるでしょう。

キャリア

福助工業（株）は２０箇所に工場があり、外国では中国とインドネシアに生産拠点があります。総

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

合包装資材のメーカーとして、レジ袋、ゴミ袋、食品容器、不織布などを製造しています。PT. FUKUSUKE KOGYO INDONESIAは１９９６年に設立されました。その年に私は帰国して、PT. FUKUSUKE KOGYO INDONESIAに入社しました。生産管理部からはじめ、輸出入担当、経理部などいろいろな部署を経験しました。

１９９０年代には、インドネシアの若い人の中で、大学まで進学できる者は多くありませんでした。進学できない人の中には、本来インドネシア大学、ガジャマダ大学、場合によっては海外留学までできる優秀な人材がいたはずです。経済的な理由で、彼らの将来はそこで止まってしまいました。このため私たちは、その優秀な人材を見つけ、社内で育てたいという考えを持ちました。高校を卒業後、社内で必要な技術や知識を学び、現在ではマネージャーや工場長になった者もいます。その過程は現在も続いています。

それらを変えていくなかで最も難しいのは、彼らが持っているマインドセットを解明することです。彼らの殆どは、私は仕事さえ持てれば十分だ、バイクを買うことができれば幸せだ、といった考えで、希望と夢はあまり高くはありません。これらの考え方は変えて、彼らがもっと頑張れば、より高い成果を達成することができるはずです。

最初の１０年間の仕事では、本当に沢山のことを学びました。私は大学では機械工学を学びましたが、仕事の中では、一度も学んだことのない様々な分野、生産計画から輸出入、会計財務などをやらなければなりませんでした。大変苦労をしましたが、いろいろなことを勉強できたことで、今となっては私の宝物だと思っています。

物づくりと人づくり・改善などの考え方は、日本とアメリカ・ヨーロッパの会社では、違う方法をとっています。優れたチームワークと本社のサポートにより、私たちは快適に働いています。殆どの従業員は高卒ですが、継続的な従業員教育の成果で、彼らは成長することができます。一作業員を探すことは非常に簡単ですが、将来マネージャーレベルになれる人材を見つけることは非常に難しいです。我々は全ての部署の幹部を、社内で教育、育成します。日本ではおそらく一般的なことだと思いますが、他の国では非常に困難なことです。

約１０年間の仕事の後、私は自分のやりたいことを見つけることができるようになりました。私は多くの人の前で話すことができませんでした。この弱点を直さないといけないと思いました。それはコミュニケーションスキルです。他の人に対する話し方と説得力です。それ以来、ゆっくりでも良いので、文法的に正しい話し方を練習し始めました。この方法は他の従業員たちと共有し、今では彼らの勉強への意識が高まり、仕事の中でも勉強しやすい環境をつくることができました。この背景には、学生の時には学ぶための方法を学びますが、実際に学ぶのは仕事の時だという考えがあります。

沢山の日本企業が他の国に設立されています。これらの企業はいろいろな課題に直面しています。モノづくりの面では、日本はどの国と比べても世界一ではないかと思います。日本でのモノづくりプロセスを他の国々に直接適用することができると思います。しかし、管理と経営については若干違い

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ます。「日本では・・・こうである」という言葉をよく聞きます。しかし、他の国では、当てはまらないかもしれません。私たちは現地の文化や習慣に従わなければなりません。常識についても同様で、日本の常識が必ずしも他の国で適用できるとは限りません。そこで先ずやるべきことは、日本の常識を現地の常識に近づけるか、現地（その社内）の常識を日本の常識に近づけるか、というようにその二つを上手く組合せることです。それをしない限りは、管理と経営は勿論のこと、社内でのコミュニケーションですらなかなか上手くいかないでしょう。

俺の夢プロジェクト

私は週末に、さまざまな活動をしていますが、以前していた私の定期的な活動の１つに、ゴミ山で毎日暮らすスカベンジャーの子供たちに対して日本語を教えるということがありました。この活動は２０１２年の初めから、２０１６年の終わりまでの５年間行いました。１週間に１回、毎週土曜日に、友人と一緒にごみ山に行きました。いつも約４０人の子どもたちが集まりました。彼らは経済的に貧しく、学校にも行けない環境にありますが、いろいろなことに興味があり情熱的な子供たちです。また、彼らは素晴らしい夢を持っています。兵士になりたい、教師になりたい、そして日本に行きたいなど、様々な素晴らしい夢ばかりです。私はその夢を叶える手伝いをしたいのです。

ゴミ山で生活している子供たちが日本語を勉強している姿

それ以外にもＳＭＳ（ショートメッセージ）を利用して、日本語を勉強するためのプログラムをつくりました。このプログラムは、６０日間にわたって毎日ＳＭＳを発信します。プログラムに参加する人には、事前に何枚かの学習シートを送ります。そして参加した人は、ＳＭＳの内容を毎日学習シートに書きうつすのです。この日本語のＳＭＳを通じて、日本語ができない人でも日本語の基礎を理解できるようになり、更に関心のある人は、引き続き日本語を独学で学ぶことを望んでいます。なぜツイッターやフェースブックではなくＳＭＳなのかと言いますと、ＳＭＳなら、携帯電話さえ持てれ

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ば誰でもどこにいてもそれに参加することができ、インターネットのような特別なネットワークは必要ないからです。この活動は、今まで６回ほど実施しました。毎回、いろいろな都市から約３００人の若い人たちが参加しました。会社はこの活動を社会貢献の一環として支援しています。

この他、私はいろいろな学校を訪問して講演をしています。特に高等学校や工業高校に行き、その学校の３年生の学生たちと対話します。最近の活動は今年の１月中頃でした。私の町から学校までは、電車で５時間と車で２時間かかりましたが、工業高校の３年生が約４００名参加しました。
卒業後に何をしなければいけないか、どのような選択できる道があるのか、といった話を彼らは期待しています。彼らはもっと多くの情報を必要としています。いつも私は約３時間、彼らといろいろな話をします。最後にはいつも、これからの夢、これから何をしたいかということを紙に書いてもらいます。その思いを書いたことによって、彼らは自分に対して約束したことになるでしょう。

私は上記の様々な活動に、「俺の夢プロジェクト」と名前をつけました。「俺の夢プロジェクト」の目的を本当に達成するために、皆さんに子供たちに対して一つの質問をしてほしいと思います。
「あなたの夢はなんですか」

私たちは答えが何であるかは必要ではありませんが、私たちが質問をすることによって、その子供たちのきっかけになり、将来のことを考えるようになることが重要です。もっと多くの若い人たちに夢を作るように誘いたいのです。早く彼らは夢を持てればより良いと思います。そうすれば早く彼らは独立でき、やりたいことをより早く実現できます。

例えば、私たちは非常に暗くて滑りやすい部屋の中にいるような状況で、向こう側にドアがあるところへ直進したいのです。しかし、暗くて滑りやすいので、私たちはつまずくかもしれません。時にはまっすぐに、時には知らずに左に曲がったり右に曲がったりすることがあるかもしれません。場合によっては、私たちはどこにも行かず同じ場所をグルグル回っているだけです。

これがもし、向こう側に少しでも光があれば私たちは簡単に直進することができます。真っ直ぐ前方向へ進めます。その光がまさに、私たちが作る必要がある夢のようなものだと思います。私たちの将来のコンパスになります。より良い未来に向けて、間違って迷わないように先にある印になります。もし少しでもその子供たちが、より熱心になって大きな夢を作るために勇敢になったら、これまでにやってきた活動は無駄にならないと思います。彼らがより良い未来に進むことができるように願っています。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

学生たちの前で夢の力について講演

講演後、学生たちとの集合写真

日本とインドネシアの関係

今年は日本とインドネシアの国交６０周年にあたります。インドネシアには日本に興味を持っている若者が沢山います。毎年いろいろなところで日本文化祭が開催されています。ジャカルタの周辺にはジャカルタ日本祭り、縁日祭、さくら祭、もみじ祭りなどがあります。これらの祭りは、通常、２日間、土曜日と日曜日に開催され、各祭りには２万人以上の観客が来場しました。バンドン市、スラバヤ市、メダン市、マカッサル市などの他の都市でも、同様の祭典が開催されます。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

石井大使と、日本とインドネシアの国交６０周年ロゴの前で

この他、学園祭を開催している大学も沢山あります。この学園祭はまさに日本の大学で行われる学園祭と同じですが､たこ焼きやお好み焼き､日本のポップミュージックなどを楽しむことができます。それらはすべてインドネシアの学生によって運営されています。日本との相互関係に関心を持つインドネシアの人々は大勢います。これは潜在的なもので両国の関係をより良くするための非常に貴重な資産です。

９０年代にインドネシア政府の奨学金で日本に留学して帰って来た若い人たちは少なくありません。彼らは間もなくインドネシアの重要な機関の高官になるでしょう。それにより今後５～１０年は両国にとって非常に重要な時期になると思います。この機会が本当に活用されれば、日本とインドネシアの将来の関係は今以上に素晴らしくなると思います。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.